

和人とアイヌの人びとは一緒に暮らしていた!?

和人とアイヌの人びとはニシン、ヒラメ、ホッケなどの魚をすり身などにして食べていました。勝山館から和人が使用していたすり鉢が発見されていることから、すり身を和人とアイヌの人びとと一緒に食べていたと考えられています。また、当時、北海道で米を作ることができなかったのも、交易で手に入れていました。

アイヌ語で「ピットク」と呼ばれる山野草を、アイヌの人びとは食事や薬に活用していました。また、「神の野草」とも呼ばれ、儀式の時にも使っていました。これは、今の「ウド」です。他にもたくさんの山野草が、勝山館には生育しています。

昔から受け継がれてきた上ノ国の食文化

上ノ国には、「ホッケの切込み」や、「スルメの塩辛」など、上ノ国でとれた物を使った食文化があります。

他に、弔事などに作られる上ノ国の山菜を使ったけんちん汁などがあります。

また、クジラ汁はお正月の時や町内の催し物で食べられています。愛されている郷土料理の1つです!

そこで!! クジラ汁のつくり方を紹介します。

クジラ汁のつくり方

《材料(4人前)》

クジラ(塩漬け) こんぶ ごぼう にんじん しいたけ ぜんまい

たけのこ 大根 ちくわ フキ 豆腐 こんにゃく

水 800cc 醤油 30ml お酒 30ml

- ① 事前に、こんぶを水に浸し、だしを取る。
- ② 材料を切る。(クジラは、短冊状に切るのが一般的です。)
- ③ 次に、クジラに熱湯をかけ、塩抜き、油抜きを行う。
- ④ 沸騰しだし汁に、クジラを入れ、他の具材を加えていく。
- ⑤ 醤油と酒を入れて、全体に味をなじませる。
- ⑥ 1時間程度火にかける。

(1日置くと具材に味がしみ込んで美味しくなります。)



上ノ国の魅力をパンフレットに!

私たちは総合的な学習の時間に、北海道で初めて和人とアイヌの人びとと一緒に暮らしていたという「勝山館」へ見学に行きました。また、「鏡づくり」、「お金づくり」、「弓矢体験」、「すり身づくり体験」、「勾玉づくり」という体験学習もしました。鏡づくりでは、やすりを使って削るのがすごく楽しかったです。これらの体験学習を通して、和人とアイヌの人びとが当時どのように暮らしていたか知れてよかったです。

みんなにも「上ノ国の魅力」を知ってほしいという思いで、パンフレットを作成しました。ぜひ、読んで感想を聞かせてください!

■鉄道とバスでお越しの場合

🚗札幌方面の場合🚗

JR新函館北斗駅 →バス→ 江差ターミナル →乗り換え(バス)→ 上ノ国方面へ

🚗青森・東京方面(新幹線)の場合🚗

JR木古内駅 →バス(江差病院前行)→ 上ノ国方面へ

🚗函館方面の場合🚗

JR新函館北斗駅 もしくは JR・道南いさびり鉄道 木古内駅 より 函館バス
★時刻表などは、各鉄道会社、函館バスのホームページからご確認ください。

■自動車でお越しの場合

🚗函館から一般道利用🚗

函館市→国道227号→江差→上ノ国町(約80km/およそ1時間45分)

🚗札幌から高速利用🚗

札幌市→道央道→札幌南IC→八雲IC→上ノ国町(約300km/およそ4時間35分)

🚗札幌から一般道利用🚗

札幌市→国道230号→長万部→江差→上ノ国町(約250km/およそ5時間10分)

■飛行機でお越しの場合✈️

最寄り空港は函館空港です。就航便、時刻については、函館空港ビルディング(株)のホームページからご確認ください。

注:空港から直接上ノ国町へ来る交通機関がありません。

上ノ国町立上ノ国中学校

〒049-0601

北海道檜山郡上ノ国町字勝山 39 番地

TEL 0139-55-2028

kaminokunijunior@educet03.plala.or.jp

パンフレットを読んだ感想をこちらに送ってください(*´ω`*)



北海道はじまりの地

歴史のあんギツシリこめて〜



令和3年度 上ノ国町立上ノ国中学校 1年制作

【A4 両面・三つ折りで作成したものを掲載しています。】

人々の暮らし

当時、広く交易していたアイヌの人びとと和人は、区別なく生活していたと考えられています。
2つの異なる民族が共存していた「**勝山館**」では、どんな暮らしをしていたのでしょうか。

Q. どのようにアイヌの人びとと和人は出会ったのか。

アイヌの人びとと和人は、交易した際に出会ったと考えられています。

本州に近い道南のアイヌの人びとは、和人の言葉を話すことができたそうです。



Q. アイヌの人びとと和人が結婚して生まれた子どもはどちらになったのか。

かつて、勝山館にいた人々は、多様な考え方を理解していたと考えられており、アイヌの人びとと和人の間に生まれた子がどちらの風習に従っているかは家族によって違いました。



Q. アイヌの人びとと和人のお墓の違いはあるのか。

勝山館では、アイヌの人びとと和人、それぞれのお墓が見つかります。どちらのお墓も、様々なものが埋葬されていました。

和人は、三途の川を渡れるようにと埋葬品を入れ、アイヌの人びとは、死後の世界でも現世と同じように暮らしていると考えられていたため、生活道具や装身具と一緒に埋葬していたそうです。



- 長い歴史を未来へ -

上ノ国町

勝山館 ～国指定史跡～

勝山館は、戦国期に築かれた「**中世城跡**」として、日本最北に位置しています。勝山館は**コシャマインの戦い**の後1470年頃**武田信広**によって築城されました。また、上ノ国には**勝山館**、**花沢館**、**洲崎館**の3つの館があり、それぞれの館に神様が祀られ、勝山館には**薬師如来**、洲崎館には**毘沙門天**、花沢館には**如意輪観音**が祀られています。このことから、上ノ国は「**神の国**」としても知られています。

*コシャマインの戦いって？

1456年、志しの苔館のぼたの鍛冶屋村で和人の鍛冶職人とアイヌの人びとが争い、アイヌの人びとが刺殺されたことから、コシャマインの戦いが始まりました。コシャマインの軍勢が道南の12の館を攻撃し、10の館を落としますが、武田信広によって侵攻がおさえられました。

荒神堂跡

勝山館跡へ行く途中に**荒神堂跡**という場所があります。蠣崎基広は1548年、蠣崎季広の暗殺が事前に発覚し、殺害されました。死後には、基広の亡霊が人々を苦しめたため、遺骨を埋葬した周辺に荒神堂を建てて、慰霊したという伝説があります。

夷王山神社

夷王山神社は、明治27年以前、「**医王山薬師堂**」と呼ばれました。その中に祀られていた**薬師如来**は、**人間をはじめ、すべての生物などの苦患を救い、体の悪い所を取り除く仏**として崇められました。今は、アイヌの人びととの戦いで戦功をあげた**武田信広**を祀っています。

夷王山神社



荒神堂跡



勝山館 全体の写真



上ノ国の出土品と勝山館

〈上ノ国の出土品〉

勝山館からは、さまざまな物が発掘されています。

1つは、鏡です。鏡は、自分の姿を見ることの他に、神社や寺で儀式の道具として使用されていました。

また、いろいろな種類のお金もたくさん見つかっています。このことから中国・ベトナム・長崎・沖縄など、広い地域との交易があったことがわかります。

洪武通寶 銅鏡



「如意輪観音」

2020年5月花沢館跡の発掘調査で、6本の手で六道すべてに救いの手を差し伸べ、願いを叶えてくれる如意輪観音が発見されました。それは、寺社の壁に吊り下げられる懸仏と思われ、出土事例は、北海道ではこれまでになく、貴重な発見になりました。

発見された如意輪観音



〈上ノ国の鍛冶〉

勝山館跡には、和人が営む鍛冶屋がありました。そこでは、ヨロイの部品や刃物類を作っていました。鍛冶の技術がないアイヌの人びとは、和人と交易して、それらを手に入れていました。



〈勝山館の建物跡〉

上ノ国町の勝山館跡は標高159mの夷王山の中腹にあります。その勝山館の建物の材料は「**ヒノキアスナロ**」が多く使用されています。それは「**ヒバ**」とも呼ばれる木です。その「**ヒノキアスナロ**」は昔、勝山館跡周辺にありました。

しかし、重くて運びづらいので、伐採後、乾燥させて製材し、軽くしてから館内に運んでいました。ここ上ノ国町は、「**檜アスナロ**」がいっぱいあることから「**檜山郡**」と呼ばれるようになったそうです。

当時の様子を再現したジオラマ

